

2016年3月9日

認定審査結果報告書

一般社団法人日本技術者教育認定機構

(1) 審査プログラム

教育機関名： 宮崎大学 工学部

認定プログラム名： 電気システム工学科

認定分野： 電気・電子及び関連の工学分野

(2) 審査結果

認定審査結果： 認定を可とする。

審査結果の内容： 別添の「審査結果」に記載。

認定期間： 2015年4月1日～2021年3月31日の6年間

(3) 次回審査の内容・手続き

次回審査年度： 2021年度

審査の種類： 認定継続審査

自己点検書の審査と実地審査による「通常審査」を実施

審査項目： 認定基準に基づく全ての点検項目

JABEEは国際的な動きも含めた技術者教育の進展や、教育プログラム側からのご意見を参考に、審査の質向上に継続して取り組んでおります。また、教育プログラムには、「技術者教育認定に関わる基本的枠組 第3章 認定の基本的立場 3.1(2)」に掲げる“優れた教育方法の導入を促進し、技術者教育を継続的に発展させる”を旨に、教育点検および改善に継続して取り組まれますようお願いしております。次回の認定継続審査においては、今回の審査で「A」と判定された項目を含め全ての基準項目につきまして、これらの観点をふまえて審査を行いますので、ご理解のほどお願いいたします。

次回受審については、審査を受ける年度に有効な認定基準、認定基準の解説、認定・審査の手順と方法、自己点検書作成の手引き等に従ってお取り進めください。

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012 年度～）
適用年度：2015 年度

宮崎大学

電気システム工学科

(エンジニアリング系学士課程)
(電気・電子及び関連の工学分野)

Electrical and Systems Engineering

審査分類：認定継続審査

提出日 2015 年 6 月 30 日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記：宮崎大学 University of Miyazaki

(2) プログラム名：電気システム工学科

(3) Program Title：Electrical and Systems Engineering

(4) 学位名：学士（工学）

(5) 連絡先

・JABEE 対応責任者氏名：今井 富士夫

所属・職名：工学教育研究部・工学教育研究部長

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-2869

ファックス番号：0985-58-2869

メールアドレス：imai@civil.miyazaki-u.ac.jp

・プログラム責任者氏名：迫田 達也

所属・職名：工学教育研究部・教授

郵便番号：889-2192

住所：宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-7350

ファックス番号：0985-58-7350

メールアドレス：sakoda@cc.miyazaki-u.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

宮崎大学工学部は、2012年度の大幅な改組改編により、環境ロボティクス学科（新設学科）と工学基礎教育センター、環境・エネルギー工学研究センター、国際教育センターの新設や学科構成の見直しを行い、環境応用化学科、社会環境システム工学科、環境ロボティクス学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科、情報システム工学科の7学科および3センターの連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指している。すなわち、旧プログラムである電気電子工学科は上記のような工学部改組の一環で電気システム工学科に新しく生まれ変わった。ただし、旧プログラムで行ってきた優れた教育システムを継承するとともに、少人数教育の充実を図るために、電気電子工学科での入学者定員88名を電気システム工学科では49名に減員した。なお、本プログラムは旧プログラムと同様に、電気システム工学科の入学者全員を対象としている。

学科の教育分野は、電気システム基礎、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの3つに大別され、電気システム工学技術者として社会で通用する基礎知識と応用能力を備えた専門技術者の育成を目指して、学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請にこたえる即戦力・実践重視の教育に取り組んでいる。なお、学生の受け入れ方法に関して、工学部の改組に伴って変更が行われた。工学部の全学科で入学者選抜の一般入試における前期日程・後期日程ともに第2志望学科を選択できるようになり、例え第1志望の学科が不合格となった場合でも第2志望の学科で合格となる場合がある。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本プログラムでは、現代社会において必要不可欠な電気電子関連技術の広範囲な教育研究分野を包含するとともに、それらの分野が密接に関連し合う電気システム基礎分野、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムに関する教育研究を通じて応用能力を有する創造性豊かな人材を育成する。加えて、多種多様な考えを持った学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請に応える即戦力・実践重視の教育を行っている。この理念の下、旧プログラムである電気電子工学科ではプログラム修了生の内、毎年約40%が大学院へ進学し、残りの約60%が電気電子関連企業を中心に就職している。大学院進学者の大部分は本学の大学院に、数名が他大学の大学院に入学している。年度末での就職確定率は毎年ほぼ100%であり、数名が公務員試験などのために、公務員専門学校へ入学している。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準に該当する説明

旧プログラムと新プログラムの学習教育到達目標は同じであり、学習・教育到達目標の特徴及び水準は前回までの受審において一定以上の水準であることが確認されている。すなわち、旧プログラムで行ってきた教育システムを継承するとともに、入学者定員を 88 名から 49 名に減員することでさらにきめの細かい教育が可能となっている。なお、学科の教育は、電気システム基礎、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの 3 つの分野を中心に据え、電気システム工学技術者として社会で通用する基礎知識と応用能力を備えた専門技術者の育成を目指して、学生の専門的能力を各個人に応じて高め、様々な社会の要請にこたえる即戦力・実践重視の教育に取り組んでいる。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻）との関係に該当する説明

本プログラムに関連する教育プログラムはない。なお、数学、物理、化学の工学基礎教育においては、工学部全教員がその専門性を考慮しながら、分担している。

5. カリキュラム上の特色に該当する説明

電気電子工学科（旧プログラム）での入学者定員 88 名を電気システム工学科（新プログラム）では 49 名に減員することで、少人数教育の充実を図り、学科の教育の特徴である、電気システム基礎分野、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの 3 つの分野をカバーしている。また、本プログラムに基づくカリキュラムでは、電磁気学、電気回路を電気電子工学における主要な基礎科目として位置づけ、週 2 時間の講義に続けて 2 時間の演習を配置している。さらに、1 つの講義に対し、予習復習を含め十分な時間をもって受講させるため、1 学期間に受講できる科目の単位数を 25 単位に制限している。これにより、学生が単位取得だけを目的に受講するのではなく、受講科目を確実に理解することが可能となる。

6. その他の特色に該当する説明

■1 年次における「大学教育入門セミナー」、「大学教育専門セミナー」、2 年次における「電気システム工学基礎演習」、3 年次における「電気システム工学課題演習 I」、「電気システム工学課題演習 II」、「電気システム工学プロジェクト実験 I」、「電気システム工学プロジェクト実験 II」、4 年次における「卒業研究」では少人数教育を実施し、きめ細かな教育および指導を行うとともに、学生と教員の間関係を密接にしている。

- 各学年に担任を配し、入学時から卒業まで、学業を中心とした諸相談に対応している。
特に4年次では進学指導と就職指導および斡旋を行っている。

1.3 最近の教育改善の状況

- ※ 学生の学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づき、また社会の変化に対応して、教育活動の点検をどのように実施しているか。さらに、その点検結果に基づいて、改善が必要と判断した事項があった場合はその改善事項に対する対応について。また、点検結果に基づいて、現在の教育活動に問題がなく改善の必要がないと判断している場合は、その根拠を簡潔に説明。
- ※ 最近の教育改善の状況について、PRしたい点も含めて簡潔に説明。また、これまでに JABEE による認定審査を受けている場合は、過去の審査での指摘事項に対して取られた教育改善などについても言及。
- ※ 当該プログラムの教育に関して、教育改善のための研究活動や、それに関する論文発表や対外発表などがあれば、それについて具体的に記載してください。また、当該プログラムの教育活動に関連して開催したシンポジウムや、他の教育機関などからの講演依頼等もあれば記載。

本プログラムでは、旧プログラムと同様に、学生と教員が、一体となって本プログラムに真剣に取り組んでいる。学生にとっては、授業評価アンケートとキャリア教育システムを利用した学習目標達成度評価により、自分の学習状況と受講のあり方の反省と振り返りに取り組み、教員にとっては学期、科目毎に教育改善のための「FD 報告書」を作成している。加えて、教育改善に対する組織が整備されている。総合的に本プログラムの改善に取り組むことを目的とした教育点検システムと、各教員が担当する講義科目の改善を目的とした教育点検システムが存在している。前者は学科内の「教育改善委員会」、「FD 委員会」及び「学科会議」が PDCA サイクルのそれぞれの役割を担い、プログラム全体の改善に取り組んでいる。後者は「FD 報告会」を通じた点検システムである。「FD 報告会」はプログラム外委員を招き、客観的な点検・評価する事を目的とし、半期に1回実施している。具体的には、授業改善アンケートの集計結果及び「FD 報告会」での議論、これに加えて「教育改善委員会」の主導で開催される「学生と教員の懇談会」での収集意見を参考にした上で、「教育改善委員会」が講義の実施方法の改善案の骨子を「学科会議」で示し、学科の構成員で議論して改善策を実行する。

1.4 自己点検結果編の総括文

- ※ 自己点検結果編を総括し、認定基準に対するプログラム全般の状況について簡単に説

明。認定基準に対する適合度が特に高い項目や、今後さらに強化が必要な項目など、認定審査を行う際にポイントとなる事項についても言及。

本プログラムでは、自立した技術者の育成を目的として学習教育到達目標(a)-(h)の内容を具体化したプログラム独自の学習・教育目標を設定し学内外に公開するとともに、プログラムの選抜方針（アドミッションポリシー）を設定し、公開している。同アドミッションポリシーに沿う形で具体的に入学者選抜法が設定・公開され、これに基づいて選抜試験が実施されている。また、本プログラムの学習・教育目標を達成するための能力を持った十分な数の教員と支援体制を構築すると共に、プログラムの学習・教育目標を達成するのに必要な教室、実験室、（余分なスペースの削除）演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備および食堂等の環境も整備されている。

入学した学生に対しては、学務規則において4年間の修業年限を規定し、工学部キャンパスガイド（学生便覧）において卒業に必要な単位数を128単位と規定し、同規則において卒業生の学位を学士と規定している。また、各科目と学習・教育目標との対応関係を明確に示すと共に学習・教育目標を十分達成できるカリキュラムを設計し、開示している。さらに、適切な内容のシラバスが作成され、その中でも学習・教育目標との対応が記され、開示されている。なお、評価方法と評価基準についてもシラバスに示し、各科目の目標に対する達成度を評価している。

学生への支援体制として、①学年担任制、②附属図書館、③宮崎大学英語学習支援システム、④学生なんでも相談室、⑤学科学生支援委員会、の5項目が存在する。これらは学生並びに教職員に開示され、活動実績もあり支援体制としての機能を果たしている。学生自身による到達度の確認は、①評価物の確認、②成績不振者に対する担任の指導、③学生自身による学習・教育目標達成度の点検の3つで行い、継続的に点検させる仕組みを取っている。ただし、③の学生自身による学習・教育目標達成度の点検は、学生が十分にシラバスの内容を把握した上で行われるべきであるが、各科目の学習・教育目標は十分に理解しない状態で授業に臨んでいる学生がいる。各科目の第1回目の授業時にシラバスの内容について説明されるが、中間テストの前後にも再度説明を行うなどの工夫が必要と考えている。

本プログラムには、PDCAのサイクルを通して総合的に改善に取り組む教育点検システムと各教員が担当する講義科目の改善に取り組む教育点検システムが存在し、それらは本プログラム構成員に開示され、実際に活動されている。また、各種委員会による活動の内容は教室会議において報告がなされる（教室会議の議事録は全教員に配布（配信））と共に、学科のホームページ上で閲覧で、いつでも構成員が確認できる。さらに、定期的なアンケ

ートの実施や学生教員懇談会等の取り組みを通し、社会の要求や学生の要望に応えるシステムが存在している。また、プログラム外委員による教育点検システム自体を点検できる構成となっている。以上の、本プログラムの教育点検システムは認定基準の特に高い項目であると考えている。

自己点検書

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）

宮崎大学

電気システム工学科

（エンジニアリング系学士課程）

Electrical and Systems Engineering

審査分類：新規審査／認定継続審査／中間審査

提出日 2015年6月30日

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O：添付資料 J-O-O：実地審査閲覧資料
1	基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	本プログラムでは、「豊かな人間性」や「社会性・国際性」が身に付き、かつ安全で安心な低炭素・高度情報化社会を実現する基幹技術として電気エネルギー工学や情報・通信システム工学が果たす役割を理解し、それらが融合した新しい産業文化を創出できる人材の育成を目標とした教育を行う。さらに、高い技術者倫理感を持って、変動する多様な社会の要請に応え得る能力を持った電気システム工学分野の専門技術者の育成を行う。	旧プログラムで示していた技術者像に、“高い技術者倫理感を持って、変動する多様な社会の要請に応え得る能力”なる部分を追加し、実際のカリキュラム編成に沿った表現に改訂した。	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	旧プログラムである電気電子工学科ではプログラム修了生の内、毎年約40%が大学院へ進学し、残りの約60%が電気電子関連企業を中心に就職している。その主な業種は、電気・情報通信機器、電子部品・デバイス、輸送機器、電気・ガス事業であり、これらの業種で活躍できるようにしている。	(参考)本プログラムは、旧プログラムの多くを継承しているために、修了生の活躍分野は同等のものを想定している。	●T-1-2:平成26年度修了生就職先一覧

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	後援会・同窓会組織を構築しており、年に1度、宮崎大学、関東地区、関西地区、九州地区で同窓会を開催し、卒業生と意見交換すると共に企業のニーズを吸い上げるようにしている。	変更なし	●T-1-3:後援会・同窓会の開催案内と議事録
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	工学部キャンパスガイド及びホームページで公開している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html T-1-1:平成27年度キャンパスガイド, p468
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	キャンパスガイド、学科のホームページに反映されており、学生、教員や非常勤講師も確認できる。学生は、毎年の学期開始時(4月)に実施している「オリエンテーション」の中で、学科FD委員会作成資料を用いて学年担任が説明を行っている。「オリエンテーション」は1年生から大学院修士課程2年生までの全ての学生を対象に実施している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-4:オリエンテーション開催案内
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	電気システム工学技術者として社会で通用する基礎知識と応用能力を備えた専門技術者を育てる上で必要な知識・能力を養えるように学習・教育到達目標を設定している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド, p468
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	学習教育到達目標(A-1)は「広い視野から多面的に物事を考える能力を身につける」、(E)では、「社会における電気システム工学の役割や使命を理解し、技術者として必要な倫理や規範を判断できる能力を身につける」としており、専門分野にかかわらず広い視野から多面的なものを見方ができる能力を習得できるようにしている。従って、(a)の内容が具体化できている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド, p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	学習教育到達目標(E)では、「社会における電気システム工学の役割や使命を理解し、技術者として必要な倫理や規範を判断できる能力を身につける」としており、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解能力を養うこととしているため、(b)の内容が具体化できている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド, p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	◎	学習教育到達目標(A-2)では「自然科学・数学を中心とした基礎知識を習得する」としており、主に数学、物理学、情報技術を中心とした自然科学の知識があり、かつ、応用できる能力を養うこととしているため、(c)の内容が具体化できている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●表1及び表2 ●T-1-1平成27年度キャンパスガイド, p468

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	◎	(A-3)では「電気システム工学の基礎となる電磁気学、電気回路などの知識を身につける」としている。また、(B)では「習得した基礎知識を電気エネルギー、電子回路、制御、情報、通信などの専門領域において応用できる能力を身につける」としている。さらに、(C)でも専門知識とそれらを応用する能力を養わせるようにしており、(d)の内容が具体化できている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	学習教育到達目標(C-3)は「解決した問題点を専門的な知識や技術の観点から総合的に考察できる能力を身につける」としており、種々の科学、技術、情報を活用して社会の要求を解決する能力を習得できるようにしている。従って、(e)の内容が具体化できている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	学習教育到達目標(D-1)、(D-2)、(D-3)、(D-4)では、実験レポートや卒業論文などにおいて、日本語で論理的な記述ができる能力を身につけること、プレゼンテーションの技術を習得すること、相手が話している内容を理解し、その要点をまとめる能力を身につける、英語の文献や資料を読み、その内容を理解できる能力を身につけることとしており、(f)の内容を具体化している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	学習教育到達目標(F-1)及び(F-2)では、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につける、問題解決するための文献調査・収集・整理する能力を身につけることとしており、自主的、継続的に学習する能力を目標とした(g)の内容を具体化している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	学習教育到達目標(C-2)では、自主的およびチームで問題・課題を解決するための手段を計画・実行し、実験やシミュレーション及びその過程における考察・議論を経て、問題を解決する能力を身につける、(F-1)、(F-2)では課題に対して文献調査・収集・整理能力も含めて自律的、継続的に取り組むことが出来る能力を身につけることとしており、(h)の内容を具体化している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	学習教育到達目標(C-2)では、自主的およびチームで問題・課題を解決するための手段を計画・実行し、実験やシミュレーション及びその過程における考察・議論を経て、問題を解決する能力を身につけることとしており、チームで仕事をするための能力に関する(i)を具体化している。	C-2の学習教育到達目標は、自主性のみならずチームで対応する能力を養うことを目的に、旧プログラムでは明文化していなかった”チームで手段を計画・実行”することを追加した。	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468 ●表1及び表2 ●T-1-5:新旧プログラムにおけるカリキュラム変更内容
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	具体的な水準についての取り決めは特にないが、本プログラムで開講している科目(実験や演習を除く)の試験レベルが、国内外で使用されている標準的な教科書や問題集に載っている程度となるようにしている。	変更なし	●J-1-1:2012年度～2015年度(前期) FD報告書
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	工学部キャンパスガイド及びホームページで公開している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-1:平成27年度キャンパスガイド、p468
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	教員への主な周知方法は教室会議である。また、メール配信される教室会議議事録によっても確認できる。さらに、同情報はホームページにも反映され、工学部教員や非常勤講師も確認できる。学生は、毎年の学期開始時(4月)に実施している「オリエンテーション」の中で、学科FD委員会作成資料を用いて学年担任が説明を行っている。さらに、工学部ロビーの学科掲示板、工学部E棟の各階の掲示板に掲示している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/JABEE.html ●T-1-4:オリエンテーション開催案内

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	◎	各授業科目において予習または復習、並びに準備に必要な時間数も考慮して、十分な授業時間数を確保できるように科目登録の上限設定を設けており、前期・後期共に原則25単位を上限としている。	旧プログラムでは上限単位を22単位としていたが、予習復習または準備に必要な時間数も考慮したうえで十分な授業時間数を確保できるものとして25単位に変更した。	●T-2-1: 平成27年度キャンパスガイド, p. 469「受講方法について」
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	カリキュラムは工学部キャンパスガイド、ホームページで開示されており、教員および学生に対して十分開示されている。また、「科目の流れ図」を作成し、工学部キャンパスガイドに掲載し、ホームページでも公開している。カリキュラムの時間割は、各学期初めに学科の掲示板に掲示すると共に、4月に全員に配布される。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H27/flowchart.pdf (講義科目流れ図)
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を明確に示している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/JABEEkamokuVer5.pdf (JABEE科目対応表) ●J-1-1: 各科目のFD報告書
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	学務規則において4年間の修業年限を規定し、工学部キャンパスガイドにおいて卒業に必要な単位数を128単位と規定し、学務規則において卒業生の学位を学士と規定している。	変更なし	●T-2-2: 平成27年度キャンパスガイド, p. 470「卒業に必要な要件」
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成されていますか？	◎	適切な内容のシラバスが作成され、その中で学習・教育目標との対応が記されて開示されている。	変更なし	https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp (学務情報システム)
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	ホームページで公開されており、大学内外からアクセス可能である。	変更なし	https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp (学務情報システム)
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	シラバスには、教育内容・方法については、「教育目的」、「教育到達目標」、「講義計画」として示されている。達成目標については、教育到達目標の中で達成目標が示されている。成績評価方法・評価基準については、「成績の評価基準」として示され、プログラム内での位置付けについても記載されている。	変更なし	https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp (学務情報システム)
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	ホームページから閲覧できる時間割及び4月のオリエンテーションで配布される時間割に示されている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/schedule/n_den_zen.pdf (時間割)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	授業実施記録を各科目でとりシラバスに沿って実践されていることが確認されている他、学科FD報告会、FD報告書で確認できる。	変更なし	●J-1-1: 各科目のFD報告書
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	上限単位を25単位に設定している。一部の科目ではアクティブラーニングを取り入れている。	アクティブラーニングが平成26年から一部科目で導入されている。自習室が1室ふやされた。	●T-2-1: 平成27年度キャンパスガイド, p. 469「受講方法について」 ●J-1-1: アクティブラーニングを行っている以下の科目のFD報告書(電気システム工学課題演習II, 工学英語, インターンシップ) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/kyouiku/pdf/study.pdf (自習室案内)
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	以下の4つの方法で学生に自分自身の到達度を継続的に点検させ、その学習に反映させている。全項目ともに十分満たされている。①評価物の確認、②成績不振者に対する担任の指導、③全科目で実施する授業アンケートで学生自身による学習・教育目標達成度の点検、④キャリア支援システム	④については、学生自身の成績入力により行っていたが、より学生が使いやすいようにキャリア支援システムの運用を4年前より始めた。	●T-2-3: 平成26年度授業評価アンケート https://sce.teng.miyazaki-u.ac.jp/karte/student/mau0010/ (キャリア支援システム)学内のみ
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	定期試験に加えて、小テスト、レポートなどの評価物は学生が確認できる。	変更なし	●J-2-1: 各科目のFD報告書
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	学科の教育は、電気システム基礎、電子回路・情報通信システム、電気エネルギーシステムの3つの分野を中心とすることとし、2015年3月時点では、5名の教授、3名の准教授、3名の助教により構成される。これら教員の他に、工学部教育研究支援技術センターから、実験指導の補助等のために技術職員2名の支援を受けている。また、講義、演習、実験のうち、補助の必要な科目にTAを配置して、教員の教育支援にあてている。	改組により教職員人数、職階構成は変わった。	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/research.html (教員・研究室一覧) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H27/H27TA.pdf (TA配分表)
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	FD活動は、学部および学科FD委員会が中心に実施している。工学部では、「電磁気学」、「数学」、「力学」、「物理化学」、「工学のための物理学」で教員間連絡ネットワークを立ち上げ活動している。本プログラムでも学科FD委員会のもとに半期毎に、FD報告会を実施して意見交換している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書内 p. 104)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	工学部の教員間連絡ネットワークは年に1回, 学科のFD報告会は半期に1度開催している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書内 p. 104)
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがあり, 当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また, それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがありますか？	◎	FD活動は, 学部および学科FD委員会が中心に実施している。工学部では, 「電磁気学」, 「数学」, 「力学」, 「物理化学」, 「工学のための物理学」で, 教員間連絡ネットワークを立ち上げ活動している。本プログラムでも学科FD委員会のもとに半期毎に, FD報告会を実施して意見交換している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書内 p. 104)
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	上記の教員間ネットワーク及び学科FD報告会の内容はホームページ上で開示されている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書内 p. 104)
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	活動の実態は各種議事録より確認できる。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書内 p. 104)
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり, 当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また, それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	教員個人評価基準では, 教育活動をはじめとして研究活動, 組織運営, 社会貢献を含めた4分野について毎年総合評価している。	教員人事(採用, 昇格)の際の教育評価は定期的に行われないことから教育活動評価から除外した。	●T-2-4: 教員個人評価のための自己申告書(全学書式, 部分)
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	工学部の教員個人評価における基準は, 学部内の教員には開示されている。	変更なし	●T-2-4: 教員個人評価のための自己申告書(全学書式, 部分)
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	工学部では教員の個人評価を行い, その中で教員の教育活動の評価も定期的に評価している。	変更なし	●T-2-4: 教員個人評価のための自己申告書(全学書式, 部分)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2.4	2.4 入学, 学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ, 学内外に開示されていること。また, それに従って選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか?	◎	プログラムの選抜方針(アドミッションポリシー)を設定している。アドミッションポリシーに沿う形で具体的に選抜方法が設定され, これに基づいて選抜試験が実施されている。広い資質の学生を受け入れるために, 複数の選抜方法が実施されている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html#elec (学科アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general (一般入試学生募集要項) ●J-2-1: 平成27年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend (推薦入試学生募集要項) ●J-2-2: 平成27年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other (帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要項) ●J-2-3: 平成27年度帰国子女入試, 社会人入試, 私費外国人留学生入試学生募集要項
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか?	◎	受験生に渡される選抜方式ごとの学生募集要項: 一般入試学生募集要項, 推薦入試学生募集要項, 帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要およびホームページに明示されている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html#elec (学科アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general (一般入試学生募集要項) ●J-2-1: 平成27年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend (推薦入試学生募集要項) ●J-2-2: 平成27年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other (帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要項) ●J-2-3: 平成27年度帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要項

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O：添付資料 J-O-O：実地審査閲覧資料
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	本学科への入学者の選抜は、一般入試(前期, 後期), 推薦入試, 帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試の6つの方法でアドミッションポリシーに沿って行っている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/admission/admission.html#elec (学科アドミッションポリシー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/general (一般入試学生募集要項) ●J-2-1: 平成27年度一般入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/recommen/recommend (推薦入試学生募集要項) ●J-2-2: 平成27年度推薦入試学生募集要項 http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/other (帰国子女, 社会人, 私費外国人留学生入試学生募集要項) ●J-2-3: 平成27年度帰国子女入試, 社会人入試, 私費外国人留学生入試学生募集要項
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決めるため、該当しない。	変更なし	不要
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決めるため、該当しない。	変更なし	不要
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の決定が行われていますか？		プログラム履修生は入学時及び編入時に決めるため、該当しない。	変更なし	不要
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	他の高等教育機関等からプログラム履修者として受け入れる編入制度が実施されている。編入制度および受験資格者は宮崎大学学務規則第13条で規定して公開されている。編入する学年等については工学部内規が制定されている。編入方法には、推薦入学と一般選抜の2種の選抜方式が設定されており、それぞれアドミッションポリシーに基づいて選抜試験を実施している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/H28kou_hennyu_2.pdf (平成28年度工学部編入学学生募集要項)
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	編入学希望者に対するアドミッションポリシー、受験資格、編入年次等は「編入学学生募集要項(推薦入学・一般選抜)」で公開されている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/H28kou_hennyu_2.pdf (平成28年度工学部編入学学生募集要項)
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	アドミッションポリシーに基づき、調査書、小論文、口頭試問、面接等を総合的に評価して編入の可否を決めている。	変更なし	●T-2-5: 編入学面接試験採点表

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	転学部、転学科については以下に示すように宮崎大学学務規則第33条で規定し公開している。転学部については宮崎大学転学部規定を制定し、申請手続きおよび審査方法を公開し、宮崎大学工学部転学部に関する内規を制定し、具体的な審査基準を公開・運用している。転学科については、工学部内規「転学科の取り扱いに関する申し合わせ」を制定し運用している。	変更なし	●T-2-6: 宮崎大学学務規則第33条(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 pp. 66-67) ●T-2-7: 宮崎大学転学部規程(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 91) ●T-2-8: 転学部・転学科等について(工学部)(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 431)
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	宮崎大学学務規則第33条で規定し公開している。転学部については宮崎大学転学部規定を制定し、申請手続きおよび審査方法を公開し、宮崎大学工学部転学部に関する内規を制定し、具体的な審査基準を公開・運用している。転学科については、工学部内規「転学科の取り扱いに関する申し合わせ」を制定し運用している。	変更なし	●T-2-6: 宮崎大学学務規則第33条(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 pp. 66-67) ●T-2-7: 宮崎大学転学部規程(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 91) ●T-2-8: 転学部・転学科等について(工学部)(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 431)
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	◎	転学部、転学科の具体的な方法は、上記規定にしたがって行う。これらの条件を満たせば、面接および小論文により特別選抜の推薦の基準に従って、本学科への受け入れについて審査し、教室会議の審議を経て工学部教授会の承認を経て可否を判定する。	変更なし	●T-2-6: 宮崎大学学務規則第33条(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 pp. 66-67) ●T-2-7: 宮崎大学転学部規程(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 91) ●T-2-8: 転学部・転学科等について(工学部)(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 p. 431)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	教室、実験室、演習室、図書室、情報処理センター、自習室、休憩場所、食堂等いずれも学生定員に準じて整備されている。	変更なし	●T-2-9: 工学部建物配置図(平成27年度キャンパスガイドより抜粋 pp.496-498, p.506)
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	工学部として、施設、設備管理に関する予算を毎年確保している。	変更なし	●T-2-10: 工学部教授会資料(予算書)
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	学生への支援体制に関しては、以下の①～⑤の5項目が存在する。これらは学生並びに教職員に開示され、活動実績もあり、支援体制としての機能を果たしている。この基準は十分満たされている。①学年担任制 ②附属図書館 ③宮崎大学英語学習支援システム ④学生なんでも相談室 ⑤学科学生支援委員会	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/tanningyoumu.pdf (担任業務) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/ (附属図書館ホームページ) https://english.vss.miyazaki-u.ac.jp/onet2/student.aspx (工学部英語学習システム) ●T-2-11: 学生なんでも相談室(平成27年度キャンパスガイドより抜粋p19) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (学生支援 学科なんでも相談室活動報告)
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	キャンパスガイド及びホームページにおいて開示している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/tanningyoumu.pdf (担任業務) http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp/ (附属図書館ホームページ) https://english.vss.miyazaki-u.ac.jp/onet2/student.aspx (工学部英語学習システム) ●T-2-11: 学生なんでも相談室(平成27年度キャンパスガイドより抜粋p.19) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (学生支援 学科なんでも相談室活動報告)
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	根拠資料のとおり、活動実績もあり、支援体制としての機能を果たしている。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (学生支援 学科なんでも相談室活動報告) ●T-2-12: 附属図書館利用ガイダンス(大学教育入門セミナー) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H27/H27_03_JABEE.pdf (担任によるオリエンテーション資料) http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H27/T_2_15.pdf (担任による就職指導)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	各科目の達成目標はシラバスに記されている。試験レベルおよび採点結果の妥当性は、教員がFD報告会でお互いに教育目標達成度をチェックすることで評価されている。「卒業研究」は、卒業論文と発表会を複数の教員で評価する。共通教育科目における達成目標と評価については担当教員が継続的に評価している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD1st_FD.pdf (平成26年度前期FD報告会実施報告書) ●J-1-1: 各科目のFD報告書
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	宮崎大学学務規則第19条と第21条により、他の高等教育機関等で取得した単位は教授会の議を経て、学部長が認定する。本学学生が放送大学で単位を取得した場合は選択共通科目が、県内の高等教育機関で単位を取得した場合は、選択教養科目が認定される。英語と仏語は、検定試験により単位が認定される。	変更なし	●T-3-1:平成27年度キャンパスガイドp.65, 第19条, 第21条 ●T-3-2:平成27年度キャンパスガイドp.93, 宮崎大学既修得単位認定規程 ●T-3-3:平成27年度キャンパスガイドp157, 「高等教育機関コンソーシアム宮崎」単位互換について ●T-3-4:平成27年度キャンパスガイドp.166-p.167, 外国語科目の単位認定の取り扱い
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法は単位認定規程、共通教育協議会、工学部教授会の申し合わせ、および電気システム工学科で定めた基準があり、それによって実施されている。	変更なし	●T-3-2:平成27年度キャンパスガイドp.93, 宮崎大学既修得単位認定規程 ●T-3-3:平成27年度キャンパスガイドp157, 「高等教育機関コンソーシアム宮崎」単位互換について ●T-3-5:平成26年度編入学生単位読み替え資料(共通教育) ●T-3-6:平成26年度編入学生単位読み替え資料(専門教育)
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	編入前に修得した単位はシラバスを確認すると共に宮崎大学学務規則第22条の宮崎大学既修得単位認定規則により評価される。共通科目の単位は教授会で承認された「編入学生の共通科目および専門科目既修得単位読み替えに関する申し合わせ」により評価される。共通科目の認定の上限は38単位であり、相当する科目は一括して認定する。	変更なし	●T-3-2:平成27年度キャンパスガイドp.93, 宮崎大学既修得単位認定規程
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	上記の方法に従って、短大もしくは高専での既修得単位の認定が行われ、H26年度は3名、平成27年度は0名の編入学生の単位認定が行われた。	変更なし	●T-3-5:平成26年度編入学生単位読み替え資料(共通教育) ●T-3-6:平成26年度編入学生単位読み替え資料(専門教育)
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	各学習・教育目標に対する達成度は主要科目の単位を修得することによって評価する。大学教育入門セミナー、専門教育入門セミナー、電気システム工学基礎演習、電気システム工学プロジェクト実験Ⅰ及びⅡ、電気システム工学課題演習Ⅰ及びⅡ、卒業研究においては学習・教育目標を横断的に評価している。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/JABEEkamokuVer5.pdf (JABEEと科目対応表)
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	◎	各年度のシラバス及びFD報告書が示すように評価が行われている。さらにFD報告会により講義内容は教員間で互いに発表することで把握され、評価基準に従っているか確認されている。	変更なし	●J-1-1: 各科目のFD報告書
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	本プログラムでは、各学習・教育目標の必要単位を修得することで、目標の達成を評価している。よって、修了生全員が学習・教育目標を達成していることが分かる。	変更なし	●T-2-2: 平成27年度キャンパスガイド, p. 470「卒業に必要な要件」

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O:添付資料 J-O-O:実地審査閲覧資料
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	本プログラムでは、各学習・教育目標の必要単位を修得することで、目標の達成を評価している。よって、修了生全員が学習・教育目標を達成することが保証される。	変更なし	●T-2-2:平成27年度キャンパスガイド,p470「卒業に必要な要件」
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	総合的に本プログラムの改善に取り組むことを目的とした教育点検システムと、各教員が担当する講義科目の改善を目的とした教育点検システムが存在している。前者は学科内の「教育改善委員会」、「FD委員会」及び「学科会議」がPDCAサイクルのそれぞれの役割を担い、プログラム全体の改善に取り組んでいる。後者は「FD報告会」を通じた点検システムである。	変更なし	●T-4-1:電気システム工学科教育改善ループ http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/H27JABEE_OR.pdf (平成27年度JABEEオリエンテーション資料より抜粋 p22) ●T-4-2:教育目標達成度チェックシステム
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育点検システムは、その内容について教室会議で説明・報告すると共に、いつでも閲覧できるように学科のホームページを通して開示している(ただし、議事メモ等に個人情報が含まれるものがあるため、学外からアクセスできないようにしている)。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (電気システム工学科教員向け情報)
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	科目間での相互の連携と情報共有を図り、さらに、本プログラム全体で点検する事を目的とした「FD報告会」を半期に1回実施している。ここでは、プログラム外委員を招き、客観的な点検・評価に取り組んでいる。	変更なし	●T-4-3:平成26年度後期FD報告会実施報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD2nd.pdf (FD報告書) 他の年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O: 添付資料 J-O-O: 実地審査閲覧資料
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	社会の要求に配慮するために、電気電子工学科を卒業した学生が就職した企業を対象に、本プログラムに関するアンケートを実施している。また、電気系の高校と連携協議会を実施している。学生の要望に配慮するために、卒業生を対象に本プログラムに関するアンケートを実施している。在学生の要望に関しては、「授業評価アンケート」の自由記述欄や「学生と教員の懇談会」での収集意見などを通して取り入れることができる。	変更なし	<p>●T-4-4:平成25年度卒業生・修了生就職先企業アンケート集計結果 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書より抜粋 p82-p87)</p> <p>●T-4-5:平成25年度卒業生アンケート実施結果 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書より抜粋 p60)</p> <p>●T-4-6:平成25年度授業改善に関する学生によるアンケート実施結果 http://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/staff/pdf/tech_FD_report_H25.pdf (平成25年度工学部FDに関する報告書より抜粋p29, p33)</p> <p>●T-4-7:第9回電気系高大連携協議会議事録 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/kodai/kodai09.pdf http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (他年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載)</p> <p>●T-4-8:平成26年度学生と教員の懇談会議事録 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26/H26kondanmemo.pdf http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (他年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載)</p>
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	本プログラムにおける教育点検システム自体の点検は、FD報告会の構成委員であるプログラム外委員によって行われている。	変更なし	<p>●T-4-1:電気システム工学科教育改善ループ http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/H27JABEE_OR.pdf (平成27年度JABEEオリエンテーション資料より抜粋p22)</p> <p>●T-4-3:平成26年度後期FD報告会実施報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD2nd.pdf http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (他の年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載)</p>
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	各種委員会による活動の内容は教室会議において報告がなされる(教室会議の議事録は各教員に電子メールで配信)と共に、学科のホームページ上でいつでも閲覧できる。	変更なし	http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (電気システム工学科教員向け情報)
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	本プログラムにおける教育点検システム自体がPDCAの改善ループを為しており、これは、本プログラムの継続的な改善を目的とした仕組みそのものである。	変更なし	<p>●T-4-1:電気システム工学科教育改善ループ http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/data/H27JABEE_OR.pdf (平成27年度JABEEオリエンテーション資料より抜粋 p22)</p>

番号	点検項目	自己 判定 結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料 T-O-O：添付資料 J-O-O：実地審査閲覧資料
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	「FD報告会」を半期に1回実施して、プログラム外委員による客観的な点検・評価を行っている。「FD報告会」での議論や「授業評価アンケート」の集計結果、これに加えて「教育改善委員会」の主導で開催される「学生と教員の懇談会」での収集意見を参考にした上で、「教育改善委員会」が講義の実施方法の改善案の骨子を「学科会議」で示し、学科の構成員で議論して改善策を実行している。	変更なし	<p>●T-4-3:平成26年度後期FD報告会実施報告書 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/data/H26FD2nd.pdf http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (他年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載)</p> <p>●T-4-9:平成26年度第2回教育改善委員会議事録 http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/kaizen/H26kaizen_02.pdf http://www.miyazaki-u.ac.jp/ese/eseonly/index.html (他年度も電気システム工学科教員向け情報内に掲載)</p>